くまもとポイント懇談会議事録

日時　：令和７年２月４日（火）
会場　：熊本市中央公民館６階　大会議室
次　第：
１．くまもとポイント事業の令和７年度の施策　（事務局説明）
２．主催者ミニアプリについて（事務局説明）

※敬称略

１．くまもとポイント事業の令和７年度の施策

（事務局）

資料（2）の説明

（座長）

ダウンロード数が伸び悩んでいるところが大きな課題。特に若年層のダウンロード数が伸び悩んでいる。その課題に向けた令和 7 年度の取り組み案へのご意見を委員の皆様から頂きたい。

まず、今年度モデル団体としてくまもとアプリ利用にご協力いただいた黒髪校区の秋山委員に課題や感想を伺いたい。

（黒髪校区自治協議会・黒髪校区第 15 町内自治会　秋山）

他の校区同様に自治会活動に取り組んでいるメンバーが高齢化しており、校区の祭り等、自治会活動を実施するには若い方の力が必要だと思っている。校区には高校大学が複数あるため、以前から声掛けをして手伝ってもらっており、ボランティアに来てくれる方も増えている。

今回アプリの周知を学校に行い、アプリきっかけで参加してもらった人もいるが、アプリを入れていない、マイナンバーカード持っていないという方も多くいた。

若者は活動証明が魅力のようだが年度末に再発行依頼多く、主催者側としてはまたか、という感じ。アプリの宣伝がもっと必要かと思う。

率先してアプリを黒髪に入れてもらったおかげでずいぶん助かっている

（座長）

若い方にご協力いただけて良かった反面、アプリのダウンロードやマイナンバーカードでの登録が進んでいないことで活動証明書発行の負担感が大きく変わらないという課題があるとのご意見だったと思う。

（白坪校区第 7 町内自治会・田上）

ボランティアの募集は緑色のボランティアミニアプリで行ったか。

（黒髪校区自治協議会・黒髪校区第 15 町内自治会　秋山）

今のところまちセンによるアプリへの代理登録や紙ベースで案内している。

（座長）

試用ということで紙での周知になっているかと思う。
資料（1）、（2）について質問がある方はどうぞ。

（白坪校区第 7 町内自治会・田上）

10 代 20 代の割合が全体の 1 割ということで、今後どのように事業を進めていきたいと考えているのか。

（事務局）

市内の高校への周知を行っているが、学校にスマートフォンを持ち込むことが難しいこともあり、高校生フェスのように高校生が集まる場でアプリの周知を行った。まだまだ周知が足りていないため、今後も機会をとらえて周知をしたい。また、各学校のボランティアサークルやボランティア部に直接声掛けなどもしていきたい。

（白坪校区第 7 町内自治会　田上）

白坪校区では小中学校と連携し、「Clean up day」というイベントを行っている。70 名ほどの参加者がいる。こういったイベントに参加した人にポイントをつける仕組みができれ

ばよい。学校生徒で 4 万人くらい、その両親を含めれば 12 万人ほどになり、アプリの浸透が見込めるのではないか。

（座長）

若年層へのダウンロードを進めるには学校、家族を巻き込んではという意見だと思う。

（熊本商工会議所青年部　浦野）

6 年度の広報効果を踏まえて今後の広報の方針について教えてほしい。

（事務局）

若年層をターゲットにＳＮＳ広告等を重点的に実施したい。
防災イベント等での PR など、イベントの際にブース出展し、PR を行う。

（熊本市社会福祉協議会　米森）

昨年実施した災害ボランティア訓練に大学生が 100 名ほど参加いただき、アプリ利用者が 25 名。非常にスムーズであった。令和 7 年度からは社協も使えるか。

（事務局）

社会福祉協議会も使える。

（熊本市社会福祉協議会　米森）

赤い羽根共同募金や能登半島地震チャリティーなどにアプリを使えると普及に役立つのではないか。

（座長）

災害時利用の話が出たが、このアプリを災害時にどう活用するか案があれば伺いたい。

（事務局）

くまもとアプリに防災機能を実装している。背景に熊本地震の際に車中泊等含め、避難状況の把握が難しかったことがある。このアプリで避難所受付をスムーズにし、適切な被災者支援に力を注いでまいりたい。

防災機能はアプリのダウンロード数が伸びないことには効果がなかなか現れてこないこともあり、11 月の震災対処訓練の際にアプリの周知、活用を行った。このアプリをできるだけ使ってもらうための PR 活動、災害対処訓練の機会を通じてダウンロードを促していきたい。

（座長）

能登半島地震で珠洲市に 1 月半ばに入った際、避難者名簿の整理などが課題だった。避難所受付や熊本地震の経験を基にした避難状況の把握やくまもとアプリは（災害時に）大いに活躍するアプリだと思う。

（託麻北校区自治協議会・託麻北校区社会福祉協議会　千代田）

避難訓練に際して、（受付用の）二次元コードがどこにあるのか知らなかった。避難所担当職員に教えてもらって初めて認識した。

自治会は防災ミニアプリの機能が全く把握できていない。機能を熟知するために自治会に対して訓練の機会をいただけたら助かる。機会をいただけるなら自治会でも利用が広がるはず。そうすれば協賛される企業も助かる。自治会に対してのアクションが必要だと思う。とことんアプリを（広げる）という気が市にあるのかと思って、待っているところ。様々な事業があるが、ユーザーを増やすために協力することが自治会の役割でもあると思う。協力したいと思う。

（特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク　樋口）

主催団体になれる団体は法人格を有している必要があるか。

（事務局）

法人格を有している必要がある。市が認証している必要がある。

（特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク　樋口）

認証団体数の伸び悩みがある。認証を受けずに活動している任意団体等も多く、そういっ

た団体へも門戸を広げられればダウンロード数が伸びるのではないか。

（高平台校区防災連絡会・高平台校区自治協議会　堀）

11 月の訓練で防災機能を体験したが、訓練の際にアプリの登録している人は全体の 2 割程度であった。ほとんどの方はアプリが手間だということで紙に記載していた。

避難所受付の二次元コードは A4 サイズでは小さい。立て看板くらいの大きさで準備してもらうとよい。

（一般社団法人熊本県中小企業家同友会　吉村）

一市民としてこのアプリを利用するとしたらという観点で考えると、このアプリで様々なことができるより、災害時にはこのアプリというような、このアプリの一番の目的を前面に示していく方が良いと思う。その結果ボランティにも使えるということが認知されるのではないか。

（白坪校区第 7 町内自治会　田上）

事務局はダウンロード数を伸ばすことが大事と考えているという認識でよいか。

（座長）

認識のとおりでよい。

（白坪校区第 7 町内自治会　田上）

ダウンロード数を伸ばすにはインセンティブを準備する等、企画が必要ではないか。

（熊本市商工会連絡協議会　柳）

経済団体として清掃活動などを行っている。会員企業数は 1,000 以上ある。我々もダウンロードの協力をしていきたいと思う。

託麻地区ではちょこっとパトロールという活動をやっており、５０回ボランティアに参加すると参加者に 500 円のクオカードを配布している。地域の任意団体等に呼びかければもっともっと広がると思う。

（座長）

協賛メニューにダウンロード推進やプレミアムな体験等がある。企業の皆様には事務局がご提案の機会をいただくなどしていきたいと考えている。

（株式会社熊本日日新聞社　森）

アプリに登録されている活動はアプリを登録している人しか確認できないのか。

（事務局）

アプリで確認いただける他、専用 HP の ebook 上にイベント一覧を掲載している。

（株式会社熊本日日新聞社　森）

その点重要だと思ったので確認した。

アプリ等を活用した地域活動マッチングは国内各地で取り組まれている。他事例では活動（プログラム）の内容や見せ方の工夫やサポートの力を入れている自治体がある。

今後地域活動を一般の方々が（アプリに）登録することができるとのことで、なかなかそういった見せ方をすることが難しいと思われる。魅力ある活動となるようなサポート体制も検討していただきたい。

（株式会社肥後銀行　デジタルマーケティング部　隈元）

ポイントは一般に流通しているポイントと交換ができるのか。

（事務局）

システム等の関係もあり、現状は考えていない。

（株式会社肥後銀行　デジタルマーケティング部　隈元）

普及策として半ば強制的にこのアプリを使わないといけない状況があるとよいかもしれない。

（白坪校区第７町内自治会　田上）

学校自体がボランティアのポイントを発行できたらいいのではないか。

（熊本経済同友会　瀬口）

ダウンロード数だけならインセンティブと必須条件が効果的。
何かするにはアプリが必須という場面をつくること。ハードルは高いがせざるを得なくなったら人に尋ねるなどで対応いただけると思う。
インセンティブについて、例えば熊本にあるスポーツチーム観戦をポイントが貯まれば無料でできるなど、スポーツとうまく結びつけていくとよいのではないか。

２．主催者ミニアプリについて

（事務局）

資料（3）の説明

（託麻北校区自治協議会・託麻北校区社会福祉協議会　千代田）

入力項目が多かったように感じる。流れとしては Google フォームのようなイメージでよいか。イベントの一覧は団体ごとに羅列されるのか。

（事務局）

主催団体ごとに活動が確認できる。

（託麻北校区自治協議会・託麻北校区社会福祉協議会　千代田）

毎月実施する活動はどうなるか。

（事務局）

将来的に複製機能を実装予定。この機能を利用することで簡単に登録ができるようになる。

（託麻北校区自治協議会・託麻北校区社会福祉協議会　千代田）

受付簿を作る事業がたくさんある。（参加者の情報は）スマホ上でしか確認できないか。

（事務局）

ミニアプリだけではなく、PC からも参加者情報等を管理できたほうが便利だとのご意見と理解している。

ミニアプリ上の情報と PC 版の管理ツール上の情報とで差異があるわけではないが、PC 版の管理ツールを一般の方にご提供できるかは運用面の問題もあるため、事務局内での検討が必要になる。

（託麻北校区自治協議会・託麻北校区社会福祉協議会　千代田）

子ども食堂の開催団体が多く、そういった団体のボランティアの募集が多い。そこへのボランティア参加者等も多く、校区として実施しているため事業の規模が大きい。

アプリを使った参加に応じてポイントが貯まるとの理解でよいか。

（事務局）

ポイントを獲得するにはマイナンバーカードを使った利用登録が必要。

子ども食堂は様々な団体で実施されている。我々も子ども食堂を推進してまいりたいと考えている。まず、要綱に記載のある団体から開始できればと思う。

（特定非営利活動法人くまもと災害ボランティア団体ネットワーク　樋口）

主催団体のアカウントは 1 つだけか。団体のアカウントにメンバーを招待することは可能か。

一斉通知機能があるか。

（白坪校区第 7 町内自治会　田上）

団体登録の修正は可能か。

（事務局）

申請中は可能。申請中に不備がある場合は熊本市から差し戻しがある。

（高平台校区防災連絡会・高平台校区自治協議会　堀）

イベントの公開範囲は年齢や地域で絞れるのか。ポイント数はどのように決まるのか。

（事務局）

公開範囲は全ユーザー。ポイントは１活動１００ポイントで統一。

（事務局）

メンバーの招待を行うことは可能。お知らせ機能としてプッシュ通知を送信することができる。

（洲崎）

操作について、（受付用）の二次元コードは参加者が読み取るとの理解でよいか。

（事務局）

その理解で問題ない。

（一般社団法人大学コンソーシアム熊本　林田）

大学コンソーシアム熊本事務局内で資料を共有した際に、マイナンバーカード登録がないとできないことが多いという点が気になった。マイナンバーカードを手元に持っていない学生も多いと思う。マイナンバーカード無しでも活動証明書を発行できるかお考えをお伺いしたい。

（事務局）

マイナンバーカードの氏名、住所、生年月日、性別、この基本４情報を使ってこのアプリ内の本人確認をしているという形になっている。活動証明書やポイントの付与というところ信頼性を高めている形になっている。マイナンバーカードの登録をしていない方は従来通り、

紙での発行をお願いしたい。

（熊本経済同友会　瀬口）

募集の際の個人情報の取り扱いについて、様々な団体が利用すると思うが、個人情報の取り扱いの責任が熊本市にいかないようにする必要があると思う。その点お考えをお伺いしたい。また、活動実績がない団体が申請し、政治活動の利用など懸念があるが、その点どう考えているか。

（事務局）

規約や組織図の提出、登録にあたっての宣誓を行っていただく。また、主催団体として把握できる情報は氏名と生年月日性別のみ。

（一般社団法人熊本県中小企業家同友会　吉村）

現時点で主催者ミニアプリは表示されていない。

（事務局）

主催者ミニアプリは熊本市 HP などで公開する指定の二次元コードを読み取ると表示されるようにする。３月中旬以降掲載できるよう準備してまいる。

（力合西校区第１町内自治会　洲崎）

一斉清掃等は複数会場に分かれているため、そこに二次元コードを持参するのが手間だと感じる。

（事務局）

今後運用等検討してまいりたいが、現状二次元コードを参加者に提示していただく必要がある。

（白坪校区第７町内自治会　田上）

二次元コードは印刷可能か。

（事務局）

可能。

～終了～